【授業科目】社会医療福祉論　　Introduction to Social Welfare

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
田中 武士	１年次 後　期	選　択	２	３０	講　義			可

授業概要（内容と進め方）及び課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／現代社会における医療福祉を含めた生活問題は複雑化、多様化している。生活上の様々な困難を強いられる人々への眼差しと想像力、共感の姿勢を重視する。憲法25条（生存権）「健康で文化的な生活」とは何かについて深く考える力と共に、医療者等として働くために必要な「聴く」「まとめる」「伝える」「考える」力を育むために視聴覚教材や新聞記事を用い実例を交えながら授業を進める。医療福祉分野を中心に人権が保障される社会はいかにあるべきかについて考え対話し、小レポート作成などの個人ワーク等も取り入れながら考察を深めていく。 課題に対するフィードバック方法／提出された課題等については全体の総評コメントを授業時間内に公開する。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー⑤「将来に向け看護を主体的に学び、人間としての自己の成長に努め、専門職としてのキャリアの基礎を形成することができる。」の達成に寄与している。
到達目標（履修者が到達すべき目標）	①　現代における医療福祉をめぐる諸問題および社会的背景について関心がもてる。 ②　社会保障、社会福祉の制度や政策を検討し、それらに対する自らの意見をもつことができる。 ③　憲法２５条（生存権）の理念を元に人間らしい生活のあり方について、論理的に考えることができる。
時間外学習に必要な内容・時間	・下記の授業計画を参考に、日頃から興味ある新聞記事や文献等に目を通し社会情勢について触れ、わからない用語などは適宜調べておくと授業内容が理解しやすい（３０分程度）。 ・定期試験は授業内容をもとに筆記試験を行う。授業での配布資料をしっかり読んで理解しておくこと。また、下欄の参考書等も学習に用いるとさらに理解が深めることができる。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第１回　イントロダクション 第２回　社会保障の概念と目的 第３回　社会福祉の法制度 第４回　現代社会と社会保障・社会福祉の動向 第５回　医療保障（医療保障制度の構造と体系） 第６回　医療保障（健康保険、国民健康保険、高齢者医療制度） 第７回　介護保障（介護保険制度の概要） 第８回　介護保障（介護保険制度の課題と展望） 第９回　所得保障（年金、社会手当、労働保険制度） 第１０回　公的扶助（生活保護制度のしくみ） 第１１回　高齢者福祉 第１２回　障害者福祉 第１３回　児童家庭福祉 第１４回　社会保障・社会福祉の歴史 第１５回　社会福祉実践と医療・看護 ※受講生の学習状況を見ながら適宜内容を変更することがある。	全て田中
評価方法 評価基準	小テスト４０％（２回）、定期試験６０％で総合的に評価する。

教科書	なし。適宜レジュメや資料を配布する。	参考書等	・福田素生ら（２０２４）『健康支援と社会保障制度　社会保障・社会福祉』医学書院. ・椋野美智子、田中耕太郎（２０２４）『はじめての社会保障　福祉を学ぶ人へ（第21版）』有斐閣. ・伊藤周平（２０２３）『医療・公衆衛生の法と権利保障』自治体研究社. ・矢吹紀人、淀川勤労者厚生協会（２０１７）『“生きる”を支える看護　西淀病院・希望の医療』日本機関紙出版センター.

学生への助言等	現代社会における市民の生活実態に基づき、保健・医療・介護分野を中心に社会保障・社会福祉を体系的に学びます。さらに、関連分野の法制度や施策の現状と課題について考え、人権保障の視点から個々の生活課題を把握していくことを目指していきましょう。なお、「健康社会要因論」と合わせて受講するとより理解が深まると思います。 ※私語や授業と関係のないパソコン、スマートフォン操作等、授業を妨げる言動は厳禁。単位取得は容易でないので受講登録にあたっては十分留意してください。受講生との対話も重視するため、主体的な姿勢での授業参加を求めます。